

せとる C E T L *Quarterly*

教育・学習活動支援センター広報 No.35

発行日 24. May. 2009

巻頭言 FD (ファカルティ・ディベロップメント) のこと

文学部長 山崎 純一

2008年4月、大学設置基準が改正され、「大学は、当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする」となった。昨年度は、いわゆる「FDの義務化」1年目であった。

本学においても、学則を改定し、全学と学部レベルで「ファカルティ・ディベロップメント委員会」(以下「FD委員会」という)を置いた。文学部でもコーディネーターを主要な構成員とするFD委員会を設置した。全学のFD委員会では、2008年度からの3カ年で、単位制の趣旨に則った一定レベルの授業外学習時間の確保を目指すことになり、学部でもそれに沿った取り組みをすることになった。

ただしFDを実施するに当たっては留意すべきことが2点あると言われている。一つは、FDは単に「授業改善・授業スキルの向上」ではないことである。本学の教育学の先生に教わったところによれば、FDのFファカルティとは教員集団、また、その教員集団としての資質のことである。大学教員として必要な資質には授業の能力もあるが、その他に研究、社会貢献、管理運営を達成するための専門能力も含まれる。つまり、FDは単に授業改善ではなく、大学や学部の理念の共有、カリキュラムの開発などを含む幅広い概念である。

もう一つは、ファカルティとは教員集団のことであり、単に個人の集合体ではないということである。ここで言う教員集団とは、複数の教員が集まって、学生やカリキュラムのことを議論し、理念や情報を共有する中で育まれる集団である。つまり、一人一人の教員が大学共同体の一員として、教育理念や価値観を共有しつつ目標に向かって進み、自分だけではなく他の教員の成長にも資する、自他共に成長することが肝要なのであり、そうした組織文化を作るのもFD活動の一環ということになる。

そうした前提の下で、文学部としては、昨年春の教授会で、一年のうちに何らかのFD活動に2回参加することを申し合わせた。特に、授業見学に力点を置いた。言うまでもなく、大学教育の原点は授業である。先哲の言葉に「足下を掘れ、そこに泉あり」とあるが、一番身近な所に知恵があると考えた。

従来から、文学部では授業は原則公開であったが、現実には、必ずしも活発に授業見学が行われていなかった。そこで、昨年からは、春と秋に、授業公開期間を設け、いくつかの授業を公開し、そこに先生方に見学に来てもらうこととした。6月に3つ、12月には6つの授業を公開してもらった。若干の懸念はあったが、先生方は快く公開の依頼に応じられ、教室によって

は十数人の先生が見学に来られた。詳しくは、文学部のホーム・ページにあるので見て頂ければ幸いである。(創価大学HP→文学部→文学部サイト→研究紹介)。

公開されたのは、10人内外の授業から100人規模の授業まで多様であった。私もいくつかの授業を見学させてもらったが、実に様々な発見があった。中国茶の作法の実演を交えた外国語コミュニケーションの授業、パワーポイントやDVDなどの映像を駆使しての授業、CALL教室での語学の授業など多様な授業が展開されていることを改めて実感した。特に、授業の最後に感想を書かせ、次回の冒頭でそれに答えている

授業や、教室を歩き回って学生に問いかけるなど、学生とのコミュニケーションを重視している授業が多いことに気がつき、とても参考になった。

結果として、文学部では、この一年間で8割弱の教員が何らかのFD活動に参加した。そうは言っても、まだまだ検討すべき課題は多い。先にも述べたが、今後は、FD活動をより広義のものとして展開すること、組織的取組を上からの強制ではなく、同僚教員として自他の成長に資するという意味でのいわば社会関係資本の形成として展開することが重要であると感じている。

2009年度CETL 構成員一覧

教育・学習活動支援センター運営委員会

運営委員長：馬場 善久

運営委員：池田 秀彦・望月 雅光・関田 一彦・西浦 昭雄・澤登 秀雄

教育・学習活動支援センター委員会(通称：所員会)

委員長：関田 一彦

副委員長：西浦 昭雄

センター委員：

(経済学部) 小林 孝次・勘坂 純市

(法学部) 中山 雅司・土井 美德

(文学部) 金子 弘・岩松 浅夫

(経営学部) 栗山 英樹・平岡 秀福

(教育学部) 清水 由朗・鈴木 将史

(工学部) 崔 龍雲・伊藤 佑子

*学部選出のセンター委員は、原則として学部FD推進に関わる立場(学部長補佐、学部FD委員など)の方々から選ばれています。

CETL専属助教：安野 舞子

CETL特別センター員：金子 徹也・竹本 恵美

CETLの教育支援について

2009年度のCETLによる教育支援は、①FDセミナー、②教育サロン、③CETL勉強会が大きな柱になります。ここでは新年度より新たにスタートするFDセミナーについて紹介します。

FDセミナーは、これまで全学FDフォーラムの分科会で開催してきた内容を拡充したもので、年6回程度の開催を考えています。これは1日がかりの全学FDフォーラムでは、一度に集約することでFD意識の向上を図るという点ではメリットがありました。他方で参加者側、運営側双方の負担も大きく、また参加希望する分科会が重複してしまうというデメリットがありました。そもそもFDは一過性のイベントではなく、日常的な活動です。そこで教員のニーズ等を考慮したFDセミナーを年6回程度企画し、新年度

が始まる時期に日程やテーマを提示することで各教員が自主的に自らの年間FD活動計画をたてやすいものにしました。なお、恒例の全学FDフォーラムは12月12日（土）午後CETL開設10周年記念シンポジウムと併せて開催することになりました。

本年度のFDセミナーは下記の通りとなっています。参加希望者は希望プログラム名を明記の上、教務第1課：澤登課長宛に学内メールか電子メール（hsawa@soka.ac.jp）にて申し込むことになっています。

次年度以降のFDセミナーにつきましてご要望等ございましたらCETLの方までご連絡ください。

2009年度 FDセミナー一覧

	日 時	テ ー マ	講 師	定員
1	5月15日(金) 16:40-18:40	評価基準表（ルーブリック）を使った指導法	安藤輝次教授 （奈良教育大学教職大学院）	40名
2	6月12日(金) 16:40-18:40	講義科目における授業工夫	坂本教育学部長 山崎文学部長	なし
3	7月22日(水) 16:40-18:40	グループディスカッションの指導法	講師調整中（コーディネーター：関田CETLセンター長）	30名
4	9月26日(土) 10:00-16:00	教材作成とeラーニングの活用	講師調整中（コーディネーター：望月副教務部長）	30名
5	10月16日(金) 16:40-18:40	図書館活用法の教え方	図書館職員、坂井孝一教授（文学部）・新津隆士准教授（工学部）	40名
6	1月22日(金) 16:40-18:40	より良いシラバスの書き方（仮）	講師調整中（コーディネーター：西浦CETL副センター長）	40名

創価大学・現代GPフォーラムを開催

3月7日（土）、S101教室において、文部科学省の2007年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に採択された取組『学生が協調的に作問可能なWBTシステム-ICTを活用した自律的学習の推進』について、第2回目となる「創価大学 現代GPフォーラム」を開催しました。

冒頭に、山本英夫学長より、本学におけるICT（Information and Communication Technology）活用の取組と、今後の展望についてあいさつがあり、その後、社団法人・私立大学情報教育協会の戸高敏之会長より、「私立大学におけるICT活用による教育改善の取り組みについて」と題して基調講演をいただきました。

戸高会長からは、中央教育審議会の答申などで、学士課程教育における質保証が重要視されており、今後大学においてもICTを活用した教員個々の教育力の向上や、学士課程教育の質向上に向けた継続的なFD活動の取組が重要であることが語られました。



私立大学情報教育協会 戸高敏之 会長

戸高会長の話を受け、山本学長は「大学教員の本質の話を聴いたように思います」とコメントされました。

次に、工学部・勅使河原可海教授および高木正則助教より「本学におけるICT活用教育と中間報告」と題した報告があった後、東京学芸大学大学院修士2年生の平井佑樹氏より、関連事例として東京学芸大学における取り組み紹介が、「作問に基づく協調学習支援システムConcertoの開発と評価」と題して行われました。

さらに、本学WBT（Web Based Training）システムの利用体験や学生へのインタビュー等をまとめたビデオ上映、創価女子短期大学・南紀子准教授および教育学部・関田一彦教授による実際の授業における実践例の紹介が行われ、今後のICTを活用した協調的学習の実践について、活発な議論が行われました。



WBTシステムの利用体験

フォーラムの最後に、馬場善久副学長より、次年度も、より充実した教育サービスの実施に向け、本取組をさらに展開していくとともに、他大学との連携を実施していく予定であることが紹介されました。

今後も、学生第一の建学理念のもと、さらなる教育環境の充実をはかっていきたいと思いません。

受動的に学ぶだけというのではなく、作問に関わることによって、知識をより確かなものにすることができる。私自身こう考えて、以前レポート形式で受講生に作問させて提出させるなどしたことがあったが、これを日常のかつ効果的に行うのはなかなか難しい。そんなわけで、WEBを通してより高度な形でそれを可能にするCollab Testシステムには大いに関心があった。

フォーラムでは、基調講演から実践例まで、あらゆる角度から話を伺うことができた。

中でも興味深かったのが、学芸大のシステム・Concertoの紹介である。創大のシステムと比較することによって、各々の特徴が浮き彫りになったからだ。単に各学生が作問するだけでなく、それをグループ内で学生同士が議論し、よりよい問題へと練り上げていくという、創大のシステムの独自性がよくわかった。手前味噌ながら、これは本当によく考えられたシステムだと思う。私も是非利用したいと思い、さっそく授業設計をあれこれ考え始めていた。

全学FD委員会アンケート調査 集計報告

CETL助教 安野 舞子

本年1月から2月にかけて、「全学FD委員会アンケート調査」が実施されました。全学FD委員会から委託を受け、CETLが本アンケートの集計を行いました。定期試験から成績処理へのご多忙な時期にもかかわらず、対象教員の半数を超える123名の先生方からご回答をいただきました。

ここではCETLに関連する部分について、その結果およびコメントを以下にご紹介させていただきます。アンケート結果の詳細については、今後CETLの年報『Annual Report』に掲載する予定です。是非そちらもご覧ください。

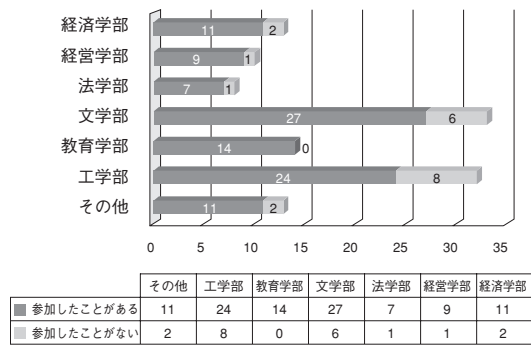
学部別アンケート回収比率

学部(専任教員数)	回収者数(人)	対専任教員比
経済学部(18)	13	72.2%
経営学部(18)	10	55.6%
法学部(24)	8	33.3%
文学部(63)	33	52.4%
教育学部(21)	14	66.7%
工学部(57)	32	56.1%
その他(センター、研究所等)(35)	13	37.1%
合計(236)	123	52.1%

全学FD委員会アンケート結果 (CETL関連部分のみ抜粋)

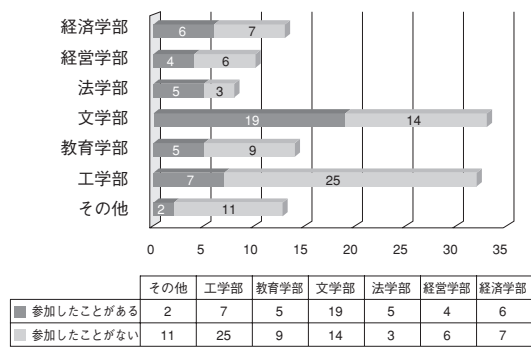
CETLを中心とした学部別全学的FDへの参加度

図1 全学FDフォーラムへの参加



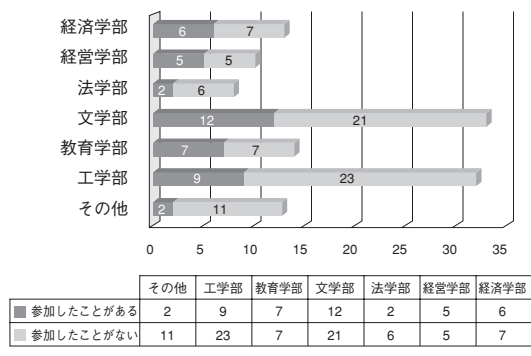
全学FD委員会が発足する以前、2004年度から2007年度まではCETLが主催で毎年「全学FDフォーラム」を開催してきました。どの学部においても、回答者のうち80%以上の先生方が「全学FDフォーラムへの参加の経験あり」と答えています。全学的なFDイベントとして定着していることが分かります。

図2 授業見学会への参加



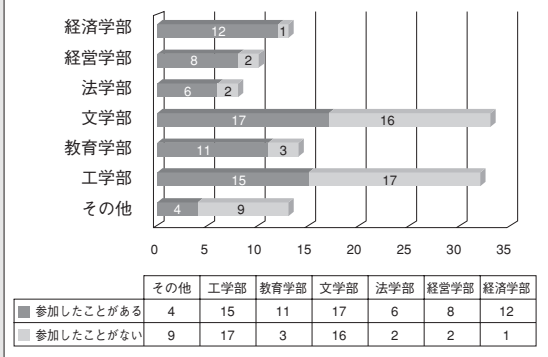
授業見学会への参加はほとんどの学部が回答者の半数を下回る中、文学部が半数以上と健闘しています。見学会は学部単位の取り組みになってきました。自分たちの学部の学生と教員がどのような授業を作っているのか学部間の共通認識作りにより有効な見学会は今後ますます学部FDの重要な活動になっていくでしょう。

図3 教育サロンへの参加



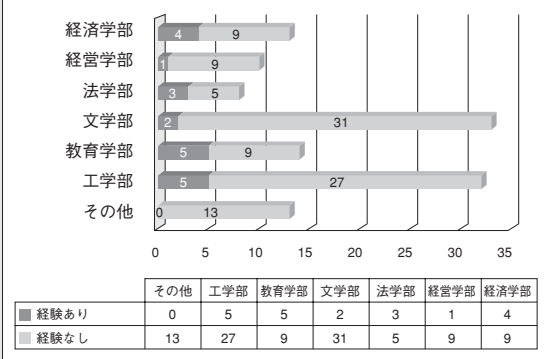
教育サロンはインフォーマルな集いであり、トピックも絞られたものが多いため、参加したことがある方はどの学部でも半数以下ですが、少人数の集いに50名以上の方が参加されたことが素晴らしいと思います。今後も話題を限定し参加者数をおさえ、その分深く多様な交流の場を提供していきたいと思います。

図4 授業技法に関する講演会やワークショップへの参加



講演会やワークショップは授業見学会や教育サロンと比較すると、参加した経験がある先生方が多いことがうかがえます。「いかに授業を工夫するか」ということは多くの先生方にとっての悩みであり課題であると思います。「この授業技法が一番」などというものは当然ありませんが、今後も「沢山ある中の一つの選択肢」として、先生方に参考にしていただけるような企画ができればと思っています。今年度から試み始めた年6回の研修プログラムが先生のニーズに応えるものになれば幸いです。

図5 ティーチングポートフォリオの作成



ティーチングポートフォリオは、その科目を履修した学生たちの学習ポートフォリオと組み合わせることで一段と価値を増します。教員の教授意図と学生の反応変化を双方のポートフォリオから相映し出すことで、その授業の教育効果がより一層明らかになります。こうした教え手と学び手のポートフォリオを学部のカリキュラムシーケンスに沿って用意できれば、その課程の教育成果に関するアカウンタビリティは非常に高まります。本学では、学習ポートフォリオの試行も始まりました。これから数年のうちには、日本では先端的なポートフォリオ活用が可能になるかもしれません。

「第1回教育サロン」を開催します

教育・学習活動支援センター（CETL）では、教職員のインフォーマルな情報・意見交換の場として年に数度の「教育サロン」を実施しております。平成21年度の第1回教育サロンを下記の通り企画いたしましたので、御案内申し上げます。

【テーマ】

「高等教育改革の動向を考える①－中教審答申を読む－」

【趣旨】

高等教育改革の動向を知る上で、昨年末に発表された文部科学省中央教育審議会（中教審）の答申「学士課程教育の構築に向けて」の内容を理解することは有益です。本サロンでは、同答

申の概要について紹介した後、示唆する内容について意見交換を行ってまいります。答申内容については文部科学省の次のホームページから資料をダウンロードできますので事前に読んできていただければ幸いです。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm

【日時・場所】

- ・ 6月5日（金）16：40～18：10
- ・ A棟6階会議室

【申込み】

- ・ 教務第1課の葦沢（nirasawa@soka.ac.jp）まで、ご連絡下さい。
- ・ 6月1日までの申し込みにご協力下さい。

CETL公式ウェブサイトがリニューアルされました

本年4月2日、CETLの公式ウェブサイトがリニューアルしました。特に「資料」コーナーを拡充し、本紙『Quarterly』、『Annual Report』、『創価大学FDシリーズ』のバックナンバーもPDFファイルにて公開しています。今後、学生の学習と教員の方々にとって有用な情報を拡充し、学内外に広く発信していきたいと思っております。是非ご一覽下さい。



<http://cetl.soka.ac.jp/>

編集後記

5月24日で、CETLは9周年を迎えます。これまで学生と教育のために尽力されてこられた方々、CETLを支えてこられた方々に、心より感謝いたします。今後、皆さまの努力を記録に残せるよう、がんばって参ります。 (T)

C E T L Quarterly No. 35

編集・発行

創価大学 教育・学習活動支援センター

〒192-8577 八王子市丹木町1-236

Tel : 042 (691) 9782 内線 2146

E-mail : cetl@soka.ac.jp